

大寄小学校 教科名 (算 数)
児童のやる気を引き出す算数科の実践

1 ねらい

- (1) 児童に「できた」「分かった」が実感できる授業を工夫する。
 - ① 少人数指導・TTによる授業の工夫
 - ② 児童の実態に応じ、「課題解決」の方法を工夫する。(個に応じて)
 - ③ 評価の工夫(教師・児童) ノート、学習カード、学習資料
 - ④ 習熟の工夫(量的に、質的に) 個に対応できる問題を用意。

2 取組概要

- (1) TT や習熟度別クラスによる少人数指導 きらきらコース(じっくり学習 10 人程度) わくわくコース(いろいろな問題に挑戦 20 人程度)

- ① コースは、レディネステストを参考に教師と児童の話し合いで決める。(移動や変更は可)

算数バイキング



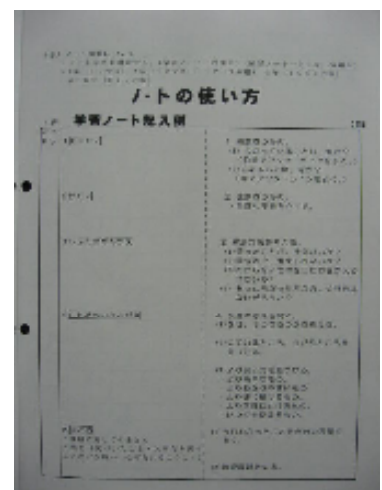
- (2) 課題解決の工夫

- ① 一つの方法で課題が解決できたら
 - ア 違う方法で 図や数直線に表して
 - ウ みんなに説明できるように

- (3) 補助具(ブロックやおはじき) や絵を描いて

- ① 習熟の工夫
 - ア 教科書の問題ができる。
 - イ 練習プリントができる。
 - ウ 発展問題ができる。
 - エ 教科書の問題 1 問ができる。 オ 数字を変えてできる。

算数ノートの使い方



- (4) 日々のノート指導と評価

- ① 問題 ② 課題 ③ 自分の考え ④ 友だちの考え
- ⑤ まとめと感想

※ノートや反省カードにはできるだけ教師の評価を入れる。児童の評価が今日の課題に対してどうであったかにふれ、「評価のみる化」を図る。児童の評価を次の授業に生かしたり、教師の授業の反省に生かしたりする。

- ⑥ 学習ノート、ドリルノートを分けて使う。

- (5) 体験的な学習を取り入れて

- 低学年 おはじきやブロックなど具体物の操作を十分に取り入れた算数的活動。
- 中高学年 実際に調べてみたり、模型・絵・図・数直線や言葉や式を使って理論的に表現させ算数的活動と思考の過程が分かるようにノートにまとめる。説明させる。

- (6) プリントを使った補充的な学習や発展的な学習と自主的学習(算数バイキング 児童が自主的に持って帰って学習できる)

3 成果

- ・算数が好きな児童が増え、できるまでがんばろうとする姿勢が芽生え始めた。
- ・計算力を中心に基礎学力は身につけてきた(ほとんどの学年で「3つ達成目標」95%以上)
- ・少人数担当と担任との情報交換の場を設けることにより授業の充実につながった。